



# グローバル研修 報告

台湾での「グローバル研修」が、昨年12月18日から21日まで3泊4日の日程で行われ、秘書科グローバルビジネスコースの学生13名が参加した。新型コロナウイルスの影響により延期が続いていたが、コース設置4年目の今年度、初めての実施となった。

本研修は、協定校である開南大学での交流会と桃園国際空港研修、そして台北市内や近郊の観光名所でのビジネス研修の3つから成っている。開南大学では、応用日本語



学科生13名との間で、昼食時間も含め3時間半の交流が行われた。双方による自己紹介、地元及び大学・学部学科紹介の後、小グループに分かれての交流が行われた。グループごとの交流では、自国の文化を紹介しながら伝統的な遊びを共に楽しんだ。それに続いてのプレゼント交換では、若者文化が感じられるさまざまな物が披露され、新たな発見もあり各所で歓声があがっていた。昼食は学生食堂で台湾の食を体験させていただいたが、この時もさまざまな話題で盛り上がっていた。従来のオンライン交流とは異なる新たな感動を得ることができ、再会を誓って大学をあ



とにした。

桃園国際空港見学は管制エリアも含めて行われ、空港スタッフの業務について詳細な説明を受けた。そして、台北101、西門町、九份、永康街、士林夜市、国立故宫博物院等における研修では、国際観光都市台北の魅力を直接肌で感じる事ができた。

プログラム全体を通し、国際感覚を磨く好機となった。

## グローバル研修「体験記」

秘書科2年 中山ひなの



今回の台湾研修は、私にとって初めての海外旅行であり、言葉や通貨、食の違いへの不安はあったが、新鮮で感動に満ちた4日間を過ごすことができた。とりわけ、台北101や龍山寺、国立故宫博物院、九份老街などの素晴らしい感性を受けた。そして、開南大学や士林夜市で出会った人々との異文化コミュニケーションは、私にとって貴重な経験となった。事前に私たち一人一人がリサーチしていたことを、それぞれの研修場所で役立てることができ、旅行をする上での準備の重要

性を強く感じた。グローバル研修は非常に濃いものであった。準備段階から現地研修に至るまでの長い時間、友人や先生方と共に様々な活動をしてきたが、それらすべてが私にとってかけがえのない思い出となった。



友人や先生方と共に様々な活動をしてきたが、それらすべてが私にとってかけがえのない思い出となった。

## 学位記授与式

3月22日に、レクザムホール（香川県県民ホール）で、令和5年度学位記授与式が行われ、大学・短期大学254名が学び舎を巣立つ。

今年度も就職状況は好調で、香川県等の公立小学校・特別支援学校に現役・既卒を併せて12名が合格した。また、公立幼稚園・保育所にも多数合格しており、企業等への就職も併せ、4月から新たなスタートを切る。

昨年5月に、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に規制が緩和され、私たちの生活や経済活動もコロナ禍以前の状況に戻りつつあり、本年度の学位記授与式は、4年ぶりに従来の形で開催する運びとなりました。こうしてご来賓ご家族関係各位のご臨席を得て、本学令和5年度学位授与式を挙行できますことは、誠に慶びに堪えません。本学教職員を代表して厚く祝意と感謝の意を表します。

ただ今、大学164名、短期大学90名、計254名の皆様、めでたく学位記を授与されました。それは、この歴史と自然に恵まれた田園都市高松に立地する本学に集い、学部・学科により期間の長短はありますが、それぞれに学問や研究に励まれ、初志を貫徹された証であります。ここに、これまでの皆様の努力に対して敬意を表し、心からおめでとうとお祝いの詞を述べたいと思います。ことに、県外や国外から遊学された皆様には、格別のご苦勞があったのではないかと推察します。

昨年はWBCで侍ジャパンが世界一、バスケットボールやバレーボールのパリオリンピック出場決定、藤井聡太八冠が全冠制覇をするなど、大変面白い話題がありました。しかし、今年の年始には、能登半島を中心とする地震が発生し、尊い命が失われ甚大な被害が生じ、今なお大勢の方が避難生活をされています。一刻も早い復興をお祈りするところです。

さて、卒業される皆様が活躍される現代社会は高速データ通信5Gの普及やAI、IoTの活用により、在宅勤務やオンラインを使ったイベントなど、新たな価値創造が起こり、急速に変化しようとしています。それは我が国にとって、戦後の激動期に相当するほどの時代かもしれません。

そのような時代を生き抜く皆様に、戦前戦後のミュージックシーンにおいて活躍された笠置シズ子さんをご紹介します。笠置シズ子さんは昨年10月から放送されているNHK朝の連続テレビ小説「ブギウギ」のモデルで、戦後は「ブギの女王」として一世を風靡した香川県大川郡相生村（現在東かがわ市）出身の歌手です。特に作曲家服部良一氏のコンビでジャズなどの影響を受けたアツペンポのリズムの曲にダンスパフォーマンズを取り入れ、戦後の邦楽シーンの大きな転機を作るなど、戦後歌謡曲の原点と

### 令和5年度学位記授与式学長告辞



高松大学  
高松短期大学  
学長 高橋 昌道

なっています。加えて時代に左右されない明るい魅力を持つ笠置さんの歌は、現在の日本のポップスシーンにも大きな影響を与え続けています。その代表作に東京ブギウギがあります。

笠置さんは、生後縁あって、亀井家の養女として大阪に移り、子ども時代を過ごし、11年間の大阪松竹少女歌劇団時代を経て、23歳で上京し松竹楽劇団に参加し、帝国劇場を拠点として活動しました。この頃、服部良一氏と出会い、松竹楽劇団を成功へと導きました。しかし、戦時色が色濃くなるにつれ劇団も厳しくなり、1941年（昭和16年）に解散、その後「笠置シズ子とその楽団」を結成し、興行をするものの、第二次世界大戦が勃発し、弟が戦死、楽団の活動も低調になり、楽団から離脱することとなります。その後、戦争も終わり、時代が大きく変化する中、笠置さんと服部氏のコンビで作られたのが東京ブギウギでした。

笠置さんは服部氏の指導のとおり自らアクションを考えてステージせましと踊り回り、力強いヴォーカルで、国民を魅了しました。特に感情をストレートに表現する歌詞は、抑圧から解放された女性たちに強い共感を呼んで、あらゆる階層の女性から圧倒的な人気を獲得したそうです。このように笠置さんの「東京ブギウギ」は、敗戦で打ちひしがれた日本人の自信を回復させることとなったようです。

今日の記念すべき日に改めて戦後の日本人の自信を回復させた笠置シズ子さんの足跡に触れたのは、皆様に、物事を成し遂げるためにしっかりと信念とチャレンジ精神や自由な発想を持ち、社会で活躍していただきたいと考えたからです。

さて、卒業後、公務員・銀行・一般企業などに進まれる経営学部・秘書科の皆様、また、小学校・幼稚園・保育所・子ども関連施設・企業などに進まれる発達科学部・保育学科の皆様、それぞれ進む道は異なり、直面する課題も多様であると存じます。

しかし、皆様が本学で学んだ、対話を重んじ、理論と実践の接点を開拓するという精神を忘れず、進取の気概を持って、自らに属している職場や地域社会の中で人と人の絆を大切に、日々起こる小さなことを疎かにすることなく、自分の役割を果たし、愛され、信頼される存在となりますよう期待して、饒の告辞といたします。

## 学長表彰

本学では、学術・文化・スポーツなどで顕著な成果を挙げた学生を対象に「学長表彰」の授与を行っています。令和5年度後期（2月末現在）の表彰は以下のとおりです。

クラブ・個人名	適 用	表 彰 日
ハンドボール部	[スポーツ部門] 第62回中四国学生ハンドボール選手権秋季リーグ戦I部 優勝	令和5年10月26日
島袋 翔(経4)	[スポーツ部門] 第62回中四国学生ハンドボール選手権春季・秋季リーグ戦I部 最優秀選手賞	令和5年10月26日
サッカー部	[スポーツ部門] 四国大学サッカーI部リーグ(兼 全日本大学サッカー選手権大会代表決定戦)優勝 インディペンデンスリーグ四国(兼 全日本大学サッカーフェスティバル四国地区予選会)優勝	令和5年11月30日
八十嶋 一斗(経4)	[スポーツ部門] 四国大学サッカーI部リーグ 最優秀選手賞	令和5年11月30日
野網 優司(経4)	[スポーツ部門] インディペンデンスリーグ四国 最優秀選手賞	令和5年11月30日
サッカー部	[スポーツ部門] 四国大学サッカー新人戦(兼 全日本大学サッカー新人戦四国地区予選会)優勝	令和6年1月24日
ファミティウ(経3)	[文化部門] 香川県留学生等国際交流連絡協議会主催「第1回外国人によるスピーチコンテスト」冠賞	令和6年2月20日
大達 都和(秘2)	[学術部門] 秘書科優秀学生(資格取得・学業成績・人物等において秘書科推薦基準を満たす者)	令和6年2月20日
留村 紗耶(秘2)	[学術部門] 秘書科優秀学生(資格取得・学業成績・人物等において秘書科推薦基準を満たす者)	令和6年2月20日

# 高松大学

## 発達科学部

### 大学生生活を振り返って

発達科学部子ども発達学科4年



吉田 いずみ  
大学生生活を振り返って、4年間でさまざまな人と出会い、多くの経験をする事ができたと感じています。大学2年次に、子どもと関わるボランティア活動への参加を通して、教員になりたいと思う気持ちを強く抱くようになり、それからボランティア活動を継続し、ゼミ連絡会の運営に携わる中で、リーダーとしての難しさや、みんなで活動することの楽しさを知りました。

教員採用試験合格をめざし、1年間仲間と互いにわからないところを教え合ったり、模擬授業を見合ったりしながら勉強に励みました。何度も心が折れそうになりましたが、ともに頑張る仲間たちが支えてくれたおかげで乗り越えることができました。私が教員採用試験に合格できたのは、教員採用試験対策に関わり、日々指導をしてくださった先生方、同じ目標を持ち、最後まで一緒に頑張ってくれた仲間のおかげだと

思っています。感謝の気持ちを忘れずに、新しい環境でも自分らしく頑張りたいと思います。

### 定期演奏会に参加して

発達科学部子ども発達学科4年



川染 日菜乃  
私は、2年次から3年続けて定期演奏会に出演することができました。オーディションから本番が終わるまで、人前で演奏することに不安がありました。しかし、大学の先生や幼い頃から師事している先生の熱心なご指導のもとで沢山の練習を積み重ね、それまでこなせなかった演奏技術を身につけ、自信を持って演奏することができました。

演奏中はとても緊張しましたが、弾ききった時の達成感、は生涯にわたって心に残る良い経験になっています。今、先生方はもちろん、支えてくれた両親や演奏を聴きにきてくれた友達にも、とても感謝しています。

4月から高松市の保育教員として勤務します。保育者の立場から子



どもたちに音楽の楽しさを伝え、一緒にその楽しさを感じられるようになりたいと思います。

## 経営学部

### 就職活動を通しての学び

経営学部経営学科4年



奥田 俊明  
就職活動を通して学んだことは、早期行動と自己分析の重要性です。

就職活動を早く始めることで、自分にマッチした就職先を見つけ、内定を決めるために必要な力を身につける準備ができます。早くからインターンシップに参加すれば、企業について詳しく知ることができ、また、自己分析を徹底することで、自分がどのような人間で、どのようにして企業に貢献することができ、そのかを分析することができます。

自己分析を行い、自己理解を深めることが難しいと感じる場合は、キャリア支援課を活用したり、ゼミナールの先生に相談したりしましょう。いずれにせよ、出来るだけ早め就職活動の第一歩を踏み出すことが大切です。就職活動では、分からないこと不安なことも多いと思

ます。ゼミナールの先生や友人、キャリア支援課の人達にも力を借りながら、悔いの無い就職活動にして下さい。

### 「企業調査入門」を履修して

経営学部経営学科1年



尾形 夏歩  
この科目では、自らさまざまな業種を調べ、実際に「ゆめタウン高松」「朝日スチール工業株式会社」を訪問して事業の特徴やその取り組みを調査しました。

事前に見学する企業を調べ、授業の時間を使って実際に企業を見学することで、調べただけでは得ることのできない知識や情報を得ることができました。また、私たちにとって身近な企業を見学することができ、将来の進路を考えるきっかけとなりました。見学後には、調査内容についてのプレゼンテーションを行いました。その際には、どのようにすれば分かりやすい報告ができるか苦心しました。

この科目を通して、プレゼンター



シヨンスキルも身につきました。身につけたことを2年生になっても、活かして頑張っていきたいと思っています。

### 探訪/研究室

経営学部 奥田 直希



京都府出身、もうすぐ三十路を迎えます。最近カ

メラとドラムを趣味にしようとして奮闘中です。人生のテーマは「一人をいかに笑わせるか」です。友人からは「数打ちや当たるボケの使い手」と評されています。

### ゼミナールの特徴

スポーツや遊びを題材に、学生の興味関心に基づいて議論したり、スポーツ界にある当たり前を問い直したりして、思考の体力トレーニングを行っています。

### ゼミ生へ一言

よく学び、よく遊び、そして提出期限を守りましょう。

### 二十歳の時の自分

大学のサッカー部に所属し、サッカーばかりしていました。思い返せばその当時から一番、サッカー選手として輝いていました。

# 高松短期大学

## 保育学科

### 短大生活を振り返って

保育学科2年 渡辺 瑠生



私は保育第2研究室に所属し、1年次の大学祭で、

「そらまめくんのベッド」の人形劇を行いました。子どもたちの前で手遊びや人形劇をすることはとても緊張しましたが、研究室の仲間と何度も練習を繰り返して、自信を持って取り組むことができました。保育学科では、子どもと関わる上で、その発達や時期に合わせた環境を構成することの大切さなど、多くのことを学びました。仲間とともに協力し合い、切磋琢磨して過ごした2年間は、かけがえのない宝物となりました。

これからは社会人としての自覚をもち、短大で学んだ



ことを忘れず、素敵な保育者になれるように精一杯頑張りたいです。また、先生方の熱心な講義や演習、実技などを通して、保育に関する専門的な知識や技術を学ばせていただいたこと、心から感謝しております。2年間ありがとうございました。

### 「中・四国保育学生研究大会」に参加して

保育学科1年 大本 芽依



私たちが保育学科1年生5名は、昨年12月2日と3日に高知県で開催された「第64回中・四国保育学生研究大会」に参加しました。

この大会は、中四国地区の保育者養成校で学ぶ仲間が集う年1回の研究大会で、4年ぶりの対面開催でした。こども家庭庁の馬場耕一郎氏の基調講演をはじめ、当学校の高知学園短期大学幼児保育学科生によるアトラクション「クリスマスファンタジー」や、参加校みんなで「よさこい鳴子踊り」を踊る歓迎イベントは、とても楽しかったです。また、各校のさまざまなテーマで工夫された口頭発表や

劇・ダンスなどの実技発表はどれも興味深く、勉強になることばかりでした。今回得た学びをこれからの学びにつなげ、さらに質の高い保育ができるよう努力し、次回も参加できるように頑張ります。



## 秘書科

### 私を成長させてくれたもの

秘書科2年 大達 都和



私はこの2年間、資格取得に力を入れました。

秘書検定やビジネス文書技能検定、MOS検定など、さまざまな検定に挑戦した中でも、日商簿記検定2級の取得が印象に残っています。

高校時代に簿記と出会い、

より高度な知識を得たいと勉強を始めた日商簿記検定には、一度では合格できませんでした。その原因は、学習計画の甘さと苦手分野の理解不足にあると気づき、次の受験日までの3カ月間は、自分なりの勉強方法を考案し、実践しました。はじめは合格点に到達することができず、勉強方法に迷いを感じることもありましたが、諦めずに毎日勉強を続けることで、次第に今まで苦手だった問題も解くことができるようになりました。



このように、資格取得を通して計画力や継続力を身につけることができ、自分自身をさらに成長させることができました。短大生活で培った経験は、就職先や社会において活かしていきたいです。

### 就職に向けた気持ちの変化

秘書科1年 土佐 涼葉



卒業生懇談会では、先輩方の生の声を聞くことができるといって貴重な体験をさせていただきました。私自身、入学後の4月から医療事務の勉強をする中で、「この仕事は本当に自分に合っているのだろうか」と思うことが何度もありました。しかし、実際に医療事務の仕事に就いて働いている先輩方の話を聞き、具体的な仕事内容などを知ることができ、私も先輩方のような医療事務員になりたいと思う気持ちが強くなりました。

この4月には2年生になり、就職に向けて準備をする最後の期間に入るため、実習や履歴書作成、面接練習など、精一杯頑張ろうと改めて思い直しました。新たな気持ちで新年度を迎えたいです。



### 高松大学ハンドボール部 2連覇中の 王者を追い詰める



昨年11月、北海道函館市道函館市で開催された「第66回全日本学生ハンドボール選手権大会」に出場した。

初戦の相手は、北海道学連の北海道大学であった。立ち上がり、ミスからなかなか波に乗れなかったが、中盤から持ち前のアグレッシブなDFからの速攻が機能しはじめ得点を重ねることができ、38対27で勝利を収めることができた。

2回戦の相手は、大会2連覇中の関東学連、中央大学であった。序盤、相手の勢いに圧倒され差を広げられる



「四国大学サッカー新人戦」で多くの選手の活躍があり、3年連続で優勝することができた。そして、「2023年度 第7回全日本大学サッカー新人戦」に進出し、東北学院大学、筑波大学、甲



### 高松大学サッカー部 「四国大学サッカー新人戦」 大会3連覇

が、GKを中心とした堅い守りからの速攻が機能し、前半を13対14と1点ビハインドで折り返した。後半も一進一退の攻防が繰り返され、残り8分で一時逆転したが、最後は相手に粘られ、最終スコア25対28での敗戦となった。最終戦績はベスト16となったが、この大会も優勝し、3連覇を飾った中央大学を相手に善戦できたことは大きな自信につながった。このような良い流れを継続させるべく、日ごろの練習から全力で取り組んでいきたい。

### 認定こども園高松東幼稚園ニュース

## たこ たこ あがれ!! こま こま まわれ!!

お正月の伝統遊びである独楽回しや凧あげ。毎年年中組の子どもたちは自分だけの凧や独楽を製作して楽しんでます。独楽は折り紙を3枚使用し、端をきっちりと合わせながら器用に折り進めていました。難しいところは友達同士で教え合いながら作る姿も見られましたよ。自分の独楽が回った時の表情はとても嬉しそうで、自然と独楽回しの輪が広がっていました。また、保育室には様々な種類の独楽を用意しており、伝



統的な遊びに触れるいい機会となっています。園が春日川沿いにあるため、凧あげに最適な風が吹くことがあります。でも、子どもたちは凧を持つとついつい走り出したくなるようで……。元気いっぱい走り回りながら、風を受けて上がる凧の感覚を味わっているようです。「みて!あがったよ」「○○ちゃん、すごい!」と、寒さを吹き飛ばすくらいに思い切り楽しんでいました。頬や鼻を真っ赤にしなが、笑顔がはじけていましたよ。

南大学と対戦した。1日目の対戦相手は東北学院大学で、接戦の末に引き分け、2日目の対戦相手、筑波大学とは0対3で敗北、3日目の対戦相手、甲南大学にも

0対4で敗北となったが、この悔しさを糧に自分たちの課題を見つけ、来年度につなげることができたようだ。新人たちの今後の成長に期待がかかる。

### 探訪/研究室

保育学科 辻野 栄一

### 自己紹介



私は美術・立体造形を専門としています。本学に来て3年に

なります。40年以上、大学教員等と共に彫刻を制作して毎年発表を続けています。

### 研究室の特徴

讃岐おもちゃ美術館や坂出市で造形表現を中心とした親子ワークショップを年に3回程開催しています。学生に実践の場を少しでも多く提供し、経験を積み重ねて欲しいと思っています。

### 研究室の学生へ一言

何事も失敗を恐れずにチャレンジしましょう。やる・やらないの選択に迫られた時には、とにかくやることを前提に物事を考えていきましょう。

### 二十歳の時の自分

芸術家になるという漠然とした夢を抱いて、ひたすら作品制作に没頭し、合間で少林寺拳法部の主将として、後輩たちと練習に励んでいました。その頃から2足のわらじを履いていましたね。

クラブ・サークル活動紹介

書道部

発達科学部子ども発達学科3年

船江 優斗

クラブ・サークルの活動内容



私たち書道部は竹田先生のご指導のもと、週に1回西館402学生演習室で活動しています。前期・後期ごとに、部員の時間割を確認

し、空きコマを活動日にしていきます。昨年はオープンキャンパスで2回と大学祭の計3回、作品展示をしました。1回ごとに1人3枚作品を作りました。今後は半紙だけでなく、画仙紙にも挑戦する予定です。

クラブ・サークルの特徴

部員は6人と少人数ではありますが、少人数だからこそ学年を越えた距離も近く、みんなで仲良く楽しく活動しています。大学生になって本格的に始めた部員も多く、初心者でも大丈夫です。各々が思い思いに書きたい文字を選び、練習しています。書いたものをお互いに見せて、アドバイスをし合うなど協力して励ん

キラリ☆輝く人

2023年度中四国学連 年間優秀選手賞受賞



経営学部 経営学科4年 島袋 翔さん

ゴールキーパーとしてハンドボール部を全日本インカレベスト16に導いた。島袋さんは、「個人賞よりも、チーム一丸となって中四国春季リーグ・秋季リーグともに優勝できたこと、また、全日本インカレでは3連覇を果たした強豪である中央大学を相手に善戦できたことはとても大きな喜びでした。来年からは琉球コラソンでプレーします。後輩たちに負けずにしっかりと頑張ります。」と抱負を語ってくれた。



男女共同参画セミナー 女性ロールモデルとの交流会

1月27日、高松市主催のセミナーに経営学部学生9名が参加した。「第5次たかまつ男女共同参画プラン」の基本目標のひとつである「男女が共に活躍する社会づくり」をテーマに、ロールモデルとなる市議会議員4名と他大学の学生を交え、女性活躍推進のスキル磨き方、ワーク・ライフ・バランスなどについて意見交換を行った。普段交流することの少ない

でいます。小学校では毛筆の授業があることから、小学校教諭をめぐす学生がほとんどです。

他大学の学生や市議会議員の皆さんとのディスカッションは、学生たちにとって、学内での座学では得られない刺激となり、キャリアについての視野を広げるだけでなく、将来への自信にもつながった。多様な価値観を知ることができ、自分なりのキャリアプランを考えるきっかけになったであろう。

発達科学部の学生チームが高松市の政策アイデアコンテストで大賞を受賞

昨年10月28日、高松市防災合同庁舎で「たかまつ政策アイデアコンテスト2023」の決勝が行われ、高松大学発達科学部の学生チーム「たーちゃんっ子」がグランプリに選ばれた。

8月に応募、キックオフ後に、中間チェックを経て迎えた決勝では、大西秀人市長をはじめとする4人の審査員の前で、高校生から社会人までの7チームが最終プレゼンテーションを行った。

保育士、幼稚園教諭をめざす発達科学部4年生の石川麗琳さん(リーダー)、石原美桜さん、大館七海さん、金丸瑞希さん、川染日菜乃さん、

都丸香織さんの6人が、「働きながら子育てする家庭への施策プラン」のテーマで、潜在保育士による子育ての悩み相談、高松市の子育て情報サイトの実現、人工知能(AI)を活用した高松市のLINEの自動返信などの施策を提案した。



編集後記

☆本学園の魅力をより多くの方々へお届けするため、様々な形で情報発信を行っております。より魅力的で、充実した情報発信をめざし、次年度は本紙や本学ホームページなどの刷新を計画しております。今後ともよろしくお願いたします。

(N)